

第三十八回 高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会・授賞式



高円宮妃殿下から高円宮賞・新保心菜さんに高円宮杯が授与された

高円宮妃久子殿下ご臨席の下、第38回高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会・授賞式は、8月28日（日）、東京・千代田区の日本武道館において、厳かに開催された。日本武道館で展覧会・授賞式を同時に開催するのは、昭和60年の第1回以来となつた。東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴う3年余の増改修工事と休館を経て、授賞式は設備を刷新した大道場で、展覧会は新設された中道場で初めて開催された。

展覧会・授賞式は、新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインに基づき、感染防止対策を講じて行われた。展覧会には約900名が来場、授賞式には受賞者、関係者ら約530名が出席した。出席者が少なかった前回（120名）と比べて、大幅に出席者が増えた。

授賞式では、高円宮賞の新保心菜さん（新潟県・新潟大学附属長岡中学校2年）をはじめ、各特別賞受賞者260名、24団体（当日欠席者含む）が表彰された。

◇展覧会

展覧会は高円宮賞をはじめ、内閣総理大臣賞、日本武道館大賞、衆議院議長賞、参議院議長賞など特別賞受賞作品260点（毛筆173点・硬筆87点）並びに本誌手本揮毫の先生方による特別出品作品（20点）が展示され、午前10時の開場と同時に、観覧者が多数来場した。

高円宮妃殿下は、12時40分頃にご到着。高村正彦大会会長（日本武道館会長）の先導で、展覧会場へと向かわれ、最初に高円宮賞の作品をご鑑賞された。同賞受

賞者の新保心菜さんに親しくお言葉を掛けられた後、記念撮影を行い、その後も各賞受賞者と笑顔で記念写真撮影に応じられ、熱心に作品をご鑑賞された。

◇授賞式

授賞式は高円宮妃殿下ご臨席の下、厳肅な雰囲気の中で午後1時から開始された。

はじめに、高村大会会長が主催者挨拶に立ち、「高円宮妃久子殿下のご臨席の榮を賜り、高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会が盛大に開催されますことは、主催者として、大きな慶びであります。この展覧会は、昭和60年に第1回が開催され、我が国の書道展で唯一の高円宮杯



大滝一登 文部科学省
初等中等教育視学官



臼井日出男 大会副会長・
日本武道館理事長



高村正彦 大会会長・
日本武道館会長



高円宮妃久子殿下

授賞式は厳肅な雰囲気の中行われた



多くの受賞者・関係者らが大道場での授賞式に挑んだ



展覧会は増改修工事で新設された中道場で行われた



を戴いております。本年で第38回を迎えて、また、会場を日本武道館に移して、開催することとなりました。栄えある各賞を受賞された皆さん、この度は誠におめでとうございます」と述べた。

続いて、高円宮妃殿下から「書道は、わが国の長い歴史の中で洗練され、日本を代表する伝統文化として発展してまいりました。今日では、多くの国民に愛好され、海外でも高い評価を得て、人々の心に喜びや感動を与える重要な文化活動となっています。心を込めた筆づかいで、ひとつひとつの言葉を丁寧に書き上げて

いく書活動の中から、自ずと豊かな人間性が養われ、日本人としての自覚と誇りが高まってまいります。本日、数多くの作品の中から厳正な審査を経て、栄えある高円宮賞を受賞された新保心菜様をはじめ、受賞者の皆様、誠におめでとうございます。これからも、日本の伝統文化を学習しているという誇りを胸に、ますますのご精進を期待いたします」とお言葉をいただいた。

次に、永岡桂子文部科学大臣の祝辞を大滝一登文部科学省初等中等教育局視学官が代読し、「書写・書道は我が国が誇ることを通して、感性を高め、想像力や表現力を一層伸ばしつつ、自らの可能性を發揮し、これから未来を切り開いていかれることを心から期待しています」と



高円宮妃殿下が特別賞受賞作をご鑑賞（宮澤鷺州審査顧問が作品を解説）



高円宮妃殿下との記念撮影（左から吉川英夫大会委員長、臼井日出男大会副会長、高村正彦大会会長、高円宮妃殿下、高円宮賞・新保心菜さん、日本武道館大賞（毛筆）・端菜々美さん、宮澤鷺州審査顧問）



授賞式の様子

読み上げた。

表彰式では、最初に高村大会会長から高円宮賞受賞者・新保さんに賞状が、妃殿下からは高円宮杯がそれぞれ手渡され、会場からは大きな拍手が沸き起った。引き続き内閣総理大臣賞をはじめとする各賞の表彰に移り、最後に団体賞の表彰が行われた。

表彰を終え、宮澤鷺州審査顧問が、加藤東陽審査部長の審査講評（別掲）を代読した後、「2時間にわたる授賞式で、受賞されたみなさんの姿勢が乱れないことに感銘を受けました。これは日頃、長時間集中して筆を動かし鍛錬されている

証であり、大変素晴らしいことだと思いました」と改めて受賞者を称えた。

続いて、受賞者を代表して高円宮賞の新保心菜さんが、謝辞を述べた（詳細は25頁）。

最後に、臼井日出男大会副会長（日本武道館理事長）が、「書写書道は日本の芸術文化の原点といえます。本日はすばらしい作品を拝見させていただき、うれしく思います。これからも地道に前を向いて書写書道に取り組んでください」と閉会の辞を述べ、授賞式は盛会の裡に終了した。

高円宮杯第三十八回展受賞者代表謝辞（全文）



新潟大学附属長岡中学校二年
新保 心菜

この度は、高円宮賞という大変名誉ある賞をいただき本当に嬉しく思います。速達の封筒を開いた瞬間、言葉にならないくらいの喜びと感謝の気持ちがこみあげてきました。

幼いころに母の勧めで始めた書道はいつしか私の生活の軸となりました。毎日欠かさず筆を持ち、失敗を繰り返しながら自分の字と向き合って、新たな発見をすることが私にとっての書道の楽しみであり常に自分自身への挑戦でもあります。

中学から始めた行書は私にとってとても興味深く、書き始めると時間を忘れるくらい夢になりました。何種類もの字典を並べ、一文字ごとに字形を調べながら作品の構成を考えることは大変ですが、その過程において、筆でしか表現できない線、道具の違いで表情が変わる紙面に魅了されたり、墨の香りと筆の感触から得られる快感を感じています。

今回賞をいただいた「海辺の風景」は自分が見たもの、感じたことを作品にしたいと思ふ、日本海の光り輝く波の様子、夕陽が沈む美しい光景を一枚の紙に心を込めて書きました。情景を表現するのにかなりの時間を要しましたが、何度も修正を繰り返し、やつと完成した一枚にはたくさんの方の想いが詰まっています。

今回賞をいただいた「海辺の風景」は自分の想いが詰まっています。

情景を表現するのにかなりの時間を要しましたが、何度も修正を繰り返し、やつと完成した一枚にはたくさんの方の想いが詰まっています。

私がこうして書道を楽しめるのは、先生のご指導や家族の支え、書道を通じて知り合った友達の存在があるからです。表彰式でまた会おうという約束が大きな原動力となり、練習に励むことができます。

私はこれまでたくさんの素晴らしい作品から感動をもらいました。そしてたくさんの方から愛情をもらいました。いつか作品を通して恩返しができるよう、技術を磨くことはもちろん、書は心の表現だと心に留め、自己研鑽に努め、自分の書を高めていきたいと思います。

最後になりましたが、大会開催にご尽力くださいました審査員の先生方、関係者の皆様に心より感謝申し上げ、受賞者代表としてお礼の言葉とさせていただきます。

令和四年八月二十八日

受賞者代表

新潟大学附属長岡中学校二年